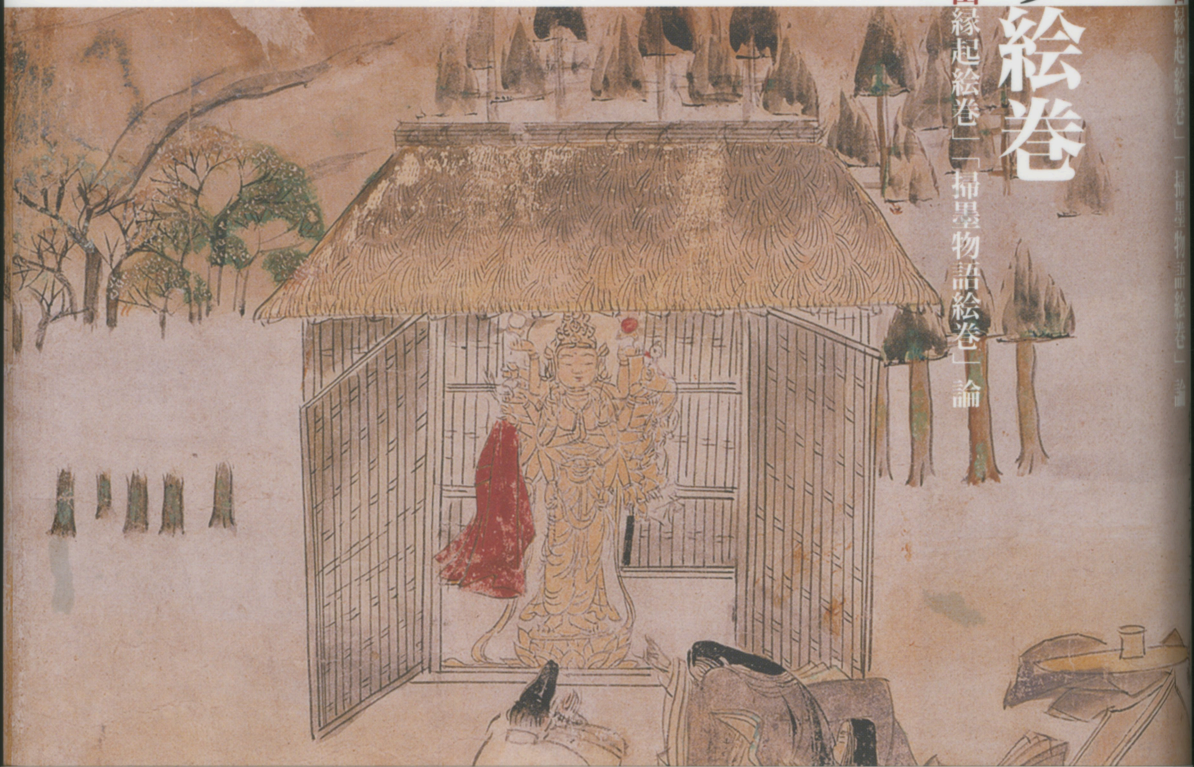


# 語りだす 絵巻

「粉河寺縁起絵巻」「信貴山縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」論

Kamei Wakana  
亀井若菜



絵巻の表現に  
「なぜ」  
を追求する。

三つの絵巻に描かれた  
「女性像」の特徴的表現から、  
誰が、何のために、  
どのような場で  
見る／見られるために、  
制作したのかを考える。

定説に挑んだ  
画期的試み。

# 語りだす絵巻

「粉河寺縁起絵巻」「信貴山縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」論

亀井若菜

ブリュッケ





口絵1 粉河寺縁起絵巻 第3段 粉河寺蔵



口絵2 粉河寺縁起絵巻 第5段



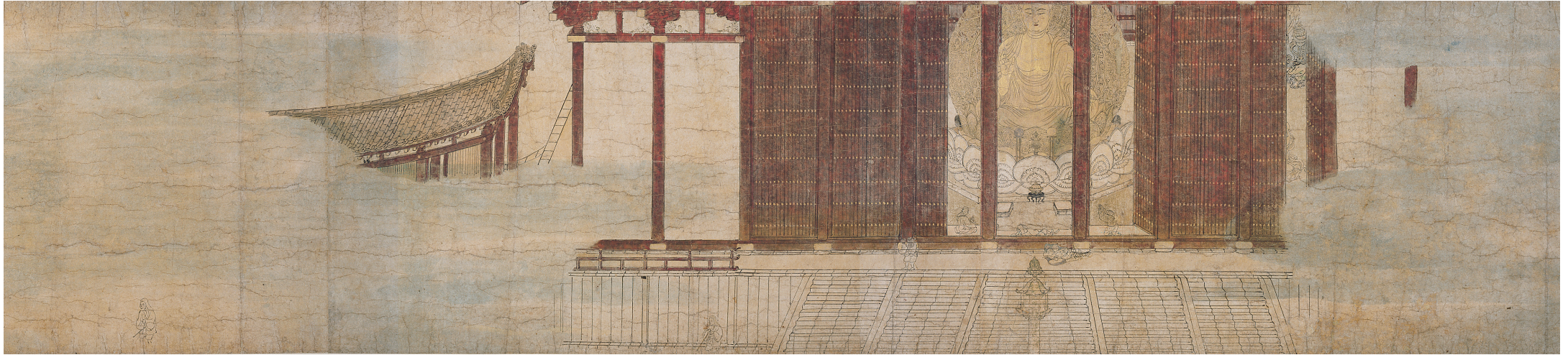


口絵3 粉河寺縁起絵巻 第2段



口絵4 粉河寺縁起絵巻 第5段





口絵5 信貴山縁起絵巻 下巻第1段 朝護孫子寺蔵  
画像提供：奈良国立博物館（撮影：森村欣司）（以下同様）





口絵9 掃墨物語絵巻 上巻 徳川美術館蔵  
© 徳川美術館イメージアーカイブ /DNPartcom (以下同様)



口絵10 掃墨物語絵巻 上巻



口絵6  
信貴山縁起絵巻  
下巻第1段

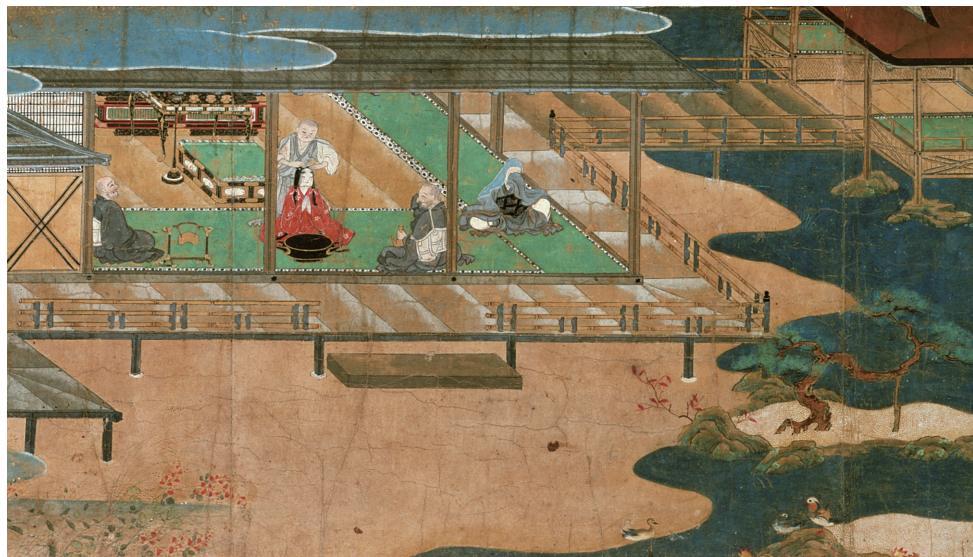


口絵7  
信貴山縁起絵巻  
下巻第1段



口絵8  
信貴山縁起絵巻  
下巻第1段





口絵 11 掃墨物語絵巻 下巻



口絵 12 掃墨物語絵巻 下巻

語りだす絵巻——「粉河寺縁起絵巻」「信貴山縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」論  
【目次】



第一章 「粉河寺縁起絵巻」論 29

- 第一節 絵巻の内容と表現——モチーフの特異性 32
- 第二節 粉河寺と高野山の堺相論——制作背景を推測する 58
- 第三節 娘の病と荆髪の姿——第二話を読み解く 68
- 第四節 堺相論という場の論理——第一話と景観表現を読み解く 105
- 第五節 絵巻が見られた場、絵巻に見る粉河寺像 145
- 第六節 「粉河寺縁起絵巻」の研究史 157

第二章 「信貴山縁起絵巻」論 217

- 第一節 絵巻の内容と表現——三巻の比較 222
- 第二節 女人往生のイメージ——下巻の尼公の表象 234

- 第三節 仙人のイメージ——上巻・中巻の命蓮の表象 258
- 第四節 絵巻三巻の叙述が見せる価値観と主題 277

第三章 「掃墨物語絵巻」論 297

- 第一節 絵巻の内容と表現 299
- 第二節 女性の黒い顔が意味するもの 313
- 第三節 男性の不浄観を脱構築する絵巻 323
- 第四節 祝福された女性の出家・遁世 334
- 第五節 女性視点から描かれた九相の絵や物語 350

終章 三つの絵巻における「俗世」と「聖域」 359

カバー図版Ⅱ「粉河寺縁起絵巻」第五段 粉河寺蔵



亀井 若菜（かめい わかな）

一九六二年神奈川県に生まれる。

一九九五年学習院大学大学院博士後期課程単位取得退学。

二〇〇二年博士号（哲学、学習院大学）取得。

二〇〇九年、滋賀県立大学人間文化学部准教授。

おもな著書

『表象としての美術、言説としての美術史——室町將軍足利義晴と土佐光茂の絵画』（ブリュッケ、二〇〇三年）

『交差する視線——美術とジェンダー2』（共著、ブリュッケ、二〇〇五年）

『涙の文化学』（共著、青簡舎、二〇〇九年）

『視覚表象と音楽 ジェンダー史叢書 第4巻』（共著、明石書店、二〇一〇年）

『図像解釈学——権力と他者、仏教美術論集4』（共著、竹林舎、二〇一三年）

語りだす絵巻——「粉河寺縁起絵巻」「信貴山縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」論

発行日——二〇一五年六月二五日 初版第一刷

二〇一五年七月二七日 初版第二刷

著 者——亀井若菜

発行者——橋本愛樹

発行所——株式会社ブリュッケ

186-0004 東京都国立市中1-16-73 アルス国立 1204

Tel. 042-580-0058 Fax. 042-580-0136

発売元——株式会社星雲社

112-0012 東京都文京区大塚 3-21-10

Tel. 03-3947-1021 Fax. 03-3947-1617

印刷・製本所——モリモト印刷株式会社

©KAMEI Wakana 2015

Printed in Japan

ISBN 978-4-434-20751-8 C1070



9784434207518

ISBN978-4-434-20751-8  
C1070 ¥4000E



1921070040002

【発行】ブリュッケ

【発売】星雲社

定価 = [本体 4000 円 + 税]



絵の新たな意味を

切り開くことはできたであろうか。

美術史研究者としての私は、

遺された造形作品を通して、

過去のある場所、

ある時点に生きた人々に

近づくことができたであろうか。

人はなぜ物語を作るのか。

どのような立場にある人が、

どのような物語を構想し、

どのような絵に描き、

絵巻に見たいと思うのか。

三つの絵巻論を終えた今、

それらに対する興味は

さらに大きくなっている。

〔本文より〕